

# 出合いを力にかえて 宮崎県川南町モーツァルト祭

川南町モーツァルト祭実行委員会事務局長

## 綾部 茂樹

「宮崎県川南町モーツァルト祭」（以下「モーツァルト祭」）は、毎年十二月に宮崎県の中央部に位置する川南町で開催される音楽祭。国内外から招聘の音楽家と、日本全国の学生からなる「日本モーツァルト青少年管弦楽団」（以下「モーツァルトオケ」）、地元の音楽愛好家（合唱団、中高生の学生吹奏楽団）が川南町に一堂に会し、約一週間にわたりコンサート、教育プログラム、交流イベントなどが開催される。昨年で七回を終了し、現在第八回目の準備を進めているところである。

最初の出合い〜いかにして「モーツァルト祭」は始まったのか〜

「ヨーロッパでは、それぞれの町にそれぞれの音楽祭がある」……「モーツァルトオケ」を主宰する馬込勇氏（平成音楽大学教授）が、平成十三年に川南町を訪れたさい、地元の音楽愛好家との交流の場で語られた言葉である。氏の思いに共感した地元住民は、「川南町でも自分たちの音楽祭を開催したい」との思いで実行委員会組織を立上げた。

同年十二月に「第一回モーツァルト祭」を開催、宮崎県内出身の若手音楽家と「モーツァルトオケ」、地元合唱団との共演によりモーツァルト作曲の「戴冠式ミサ曲」を演奏した。

「田舎町でクラシックのコンサートが成功するのだろうか？」との大きな不安を抱えての開催であったが、「なんかわからないけど、とにかく感動した」「来年以降も続けてもらいたい」などの声が開かれ、予想をはるかに上回る反応が返ってきた。

川南町は、宮崎市から北に約四〇キロメートルの宮崎県中央部に位置し、人口は一万七千二百人、豊かな自然環境のよと農漁業を中心に発展してきた町である。日本全国からの開拓者によって築かれたといえ、歴史をもっており、フロンティアスピリットに満ち溢れた町、「川南合衆国」とも言われている。「第一回モーツァルト祭」の成功により、実行委員会のメンバーは「私たちの町の音楽祭を創っていこう！」との思いを再認識するとともに、「川南町から芸術文化を発信しよう！」との思いを強くもった。

さまざまな音楽家との出合い〜「モーツァルト祭」とは……

「モーツァルト祭」を続けていくにあたり、以下の三つのコンセプトを考えた。

● Education：教育プログラムに力を入れた音楽祭にしよう！



第5回モーツァルト祭：カルミナ・ブラーナ

国内外で活躍の音楽家を招聘し、コンサートのソリストとして活躍していただくほか、マスタークラス、楽器教室などの講師として活躍していただいている。これまでにG・フオーグルマイヤー氏（ウィーン・フィル）のフルートマスタークラス、植田克己氏（東京芸術大学）のピアノマスタークラス、他を実施。また、期間中に宮崎県内の学校に出向いての音楽教室、吹奏楽指導などを行なっている。

● **Harmony**：世代、地域をこえて、人びとが交流する音楽祭にしよう！

「モーツァルトオケ」は、高校生から大学院生のメンバーからなる青少年オーケストラで、学校、地域の枠を超えて結成されている。また、毎年結成される「モーツァルトフェスト合唱団」は宮崎県内を中心に二〇〜六〇歳代の音楽愛好家からなる。コンサートでは、国内外から招聘の音楽家と上記オーケストラ、合唱団の共演を行ない、音楽を通じて世代、地域をこえた交流が図られている。

平成十八年からは、地元中学校、高等学校の吹奏楽部と「モーツァルトオケ」の共演も実施。「モーツァルト祭」期間中の合同練習ばかりでなく、九〜十一月に「モーツァルトオケ」のメンバー数名が学校を訪れ、指導を行なうなど新たな交流も生まれている。

余談であるが、我々の実行委員長は浄土宗の住職であり、音楽アドヴァイザーのB・スルツァー氏（オーストリアの作曲家）はカトリックの神父である。

● **Locality**：豊かな自然環境を活用しながら、地域住民が主体となる音楽祭にしよう！

実行委員会は、職業の異なる地域住民からなり、年間を通して運営委員会を開催し準備を進めている。さらに、実行委員会として、さまざまな地域活動に積極的に参加するように心がけ、地域との連携が図れるようにしている。

「モーツァルトフェスト合唱団」は毎年公募を行ない、初心者でも参加できるよう毎月練習を行なっている。毎年六〇名〜八〇名程度の合唱団を結成している。

「モーツァルト祭」の最終日には、地元の農家、漁協、婦人会などに協力していただき、地元食材を囲んでの交流イベントが開催される。毎年、この交流会を楽しみにしている参加者も多い。

この三つのコンセプトを実現していくためには、地域の力にあわせて、「モーツァルト祭」を通じてのさまざまな音楽家との出会いによるところが非常に大きい。コンサート、マス



2005年オーストリア公演：ヴィラリング修道院にて

タークラス等での活躍もさることながら、期間中一緒に行動（招聘の音楽家の方々は川南に滞在）していくなかでのアドヴァイスが大きな励みとなっている。何よりも、音楽に対する姿勢、「モーツァルト祭」に真摯に取り組んでくださっていることを実感できることが、私たちに大きな力を与えてくれている。

ヨーロッパとの出会い〜二〇〇五オーストリア引越し公演〜

「モーツァルトの故郷で歌ってみたい」、平成十四年「第二回モーツァルト祭」での交流会で合唱団員の女性が無気なく発した言葉である。これを聞いておられたB・スルツァー氏は、オーストリアに帰るなりコンサート実現へ向けて尽力され、平成十七年三月「モーツァルト祭 オーストリア引越し公演」が実現した。

「モーツァルトオケ」のみの公演が、ウィーン、リンツ、リード（リンツ近郊の小都市）の三箇所、合唱団を含めた公演はヴィラリング修道院（リンツ郊外、B・スルツァー氏が音楽長を務めている）、リード市立教会でのミサでの演奏である。

リード市は、人口約一万三千人の小都市で、石畳の中心部は興味深く散策しても二時間程

度で一周できる広さである。商店は専門店が多く、高価なものも置いてある（町の人たちは、自分の町で買い物をしていることが想像される）。コンサートの開場時間になるとフォーマルな装いの人びとが会場に集まり、青少年オーケストラの演奏を楽しみ、途中の長めに取られた休憩時間では、それぞれ飲み物を片手に会話がはずんでいる。「小さな町のそれぞれに文化があり、音楽を楽しむ場がある」ことを実感できた。

ヴィラリング修道院では、会場に入るなりロココ様式のきらびやかな装飾に圧倒させられた。モーツァルトの時代には既に築造されていた建物と聞いた。リハールでは、ヨーロッパで活躍のソリスト（アッチスベルガー氏、他）に感動、一緒に演奏できることに大きな喜びを感じる。ミサが始まると、張り詰めた緊張感のなかでの演奏となる。普段経験することのない教会での響き、石造りの建物の中で心地よい残響感、様々な人の思い（祈り）が、歌声を高い位置まで運んでくれるようだ。神聖な気分になる。

ミサが終わり大聖堂前の広場に出ると、参列していた地元の方々が私たちを待っていてくださり、拍手で迎えてくださった。地域の方々に受け入れていただいたような気分になった。



地域食材を囲んでの交流会（宮崎県川南町モーツァルト祭）

地域との出会い「モーツァルト祭」での町の活性化

先日、町内で音楽監督の馬込勇氏と食事をしていて「今年のモーツァルト祭は何をやるのですか」と聞かれた。概ねの予定を説明したところ、「がんばってください」と暖かい声をいただいた。馬込氏は言う。「この町で『モーツァルト』という言葉が普通に聞かれるようになったね」と。「モーツァルト祭」を実施していくに当たり、町の方々にコンサートに来ていただければ幸いであるが、そうでなくともポスターやバナー（旗）、その他何かのきっかけで音楽の話題が聞かれれば喜ばしいことと思う。

活動を行なっていくにあたり、励ましの言葉や、時には厳しい意見など、これまであまり親交のなかった人と話す機会がもて、またいろいろな特技を持った人（写真、デザイン、ドイツ語など）を知ることができた。

「私たちの町の音楽祭」を目指して活動を行なっているが、あわせて音楽を通じて町の活性化が図れればと考えている。実際には、体制面、財政面で地域の協力なしには「モーツァルト祭」は成り立たず、毎年終了するたびに感謝の気持ちでいっぱいになる。

前述のとおり、「モーツァルト祭」はさまざま

まな交流の場であり、そこから新しい空気が町に吹き込まれることを期待している。同時に「モーツァルト祭」は住民がいろいろな形で参加できる場であり、客観的に外からの評価を受けるとともに、主体的に改めて町を知ることが出来るのではないかと考えている。そして、この町を見つめ直すということが、町の活性化につながるのではと考えている。

新たな出会いを求めて「これからの活動」

「モーツァルト祭」は、川南町での多くの出会いにより支えられている。これまでの出会いにより得られた力を大切にしながら、今後も音楽を通じての出会いの場の創造を行なっていきたいと思う。

第八回を迎える今年の「モーツァルト祭」は、十二月十九日～二十四日に開催。コンサートでは「戦時のミサ」（J・ハイドン作曲）、他を予定。また昨年引き続きピアノマスタークラス（講師：植田克己氏）を予定している。

また、B・スルツァー氏、A・Mパムマー女史の尽力により、来年三月のオーケストラ公演が決定。前回同様、教会ミサでの演奏のほか、オーケストラ、合唱とも邦人作曲家の作品の演奏を行ないたいと考えている。